

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2017年度 共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2018年 4 月 20 日 提出

1. 研究課題名	
演劇上演記録データベースを活用した、演劇資料画像検索閲覧システムの構築に関する研究 (英文標記: _____)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
武藤 祥子(むとう さちこ)	公益財団法人 松竹大谷図書館
3. 研究分担者 (合計: 4 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
井川 繭子(いがわまゆこ)	松竹大谷図書館司書
村島 彩加(むらしまあやか)	日本学術振興会・PD
倉橋 正恵(くらはしまさえ)	立命館大学衣笠研究機構客員研究員
原田 真澄(はらだますみ)	日本女子大学学術研究員

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
<p>松竹大谷図書館は、開館以来演劇資料整理の基礎となる演劇上演記録を作成してきた。この上演記録は、主に明治初年から戦前までの東京の記録と、戦後の各地の大劇場、及び東京の小劇場の記録である。これまでの研究では、これらの記録を完全にデータベースに移行し、考証を進めてデータの精度を上げてきた。今後は日本演劇の研究と資料整理の基礎となるこの上演記録データベースを基に、立命館大学アート・リサーチセンターとの共同研究により、所蔵資料のデジタル画像化を進め、検索閲覧システムを構築し、Web 公開を進めることを課題としている。</p>
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

□松竹大谷図書館における考証作業

2017年度の研究では、昨年度に引き続いて演劇上演記録の考証を行った。

まず劇場ごとの考証作業では、紀伊國屋ホール公演記録について、1964年の開場より現在までの新劇を中心とした演劇興行の上演データについて、松竹大谷図書館が所蔵する劇場プログラムの他、『演劇年鑑』や各種演劇雑誌、刊行されている各劇団史などを参照して考証を行った。

さらにジャンルごとの考証作業としては、各劇場で上演された舞踊会興行について上演記録の作成と考証作業をおこなった。入力作業にあたっては、松竹大谷図書館が「舞踊会筋書」として上演年順に合本保存している筋書(プログラム)を網羅的に入力した。その結果、完成したデータは上演記録であると同時に、今まで目録化されてこなかった舞踊会筋書の所蔵目録としても有効に活用できるものとなっている。

上記の考証作業は、本研究プロジェクトが始動した2014年度より引き続き担当している、演劇の専門知識を持った人材2名により入力作業が行われた。作業の際には演劇のジャンルや出演者等に関する知識が必要となるため、継続して入力作業を行うことにより当館の所蔵資料を活用した高度な考証を自主的に行ってもらえるようになった。これにより完成したデータの内容についても充実度が上がっているおり、確実に研究成果は上がっている。また、担当者が当該研究で得た知識を自身の研究に生かす事も増え、さらにその成果物が、当館の所蔵資料として寄贈されるに及んで、研究成果が循環している事を実感している。

□アート・リサーチセンター日本芸能・演劇総合上演年表データベースとのシステム連携

2014年度より2015年度にかけて、ジャンルを「新派」に限定して考証作業を行ったデータ(2,653件)を整備し、2017年度にアート・リサーチセンターのデジタル歌舞伎博物館内「新派上演年表」の基礎データとして管理者限定公開した。

また、アート・リサーチセンターに委託してデジタル・アーカイブ化を行った芝居番付約5,800枚についても、これまで公開していた3250件に加え、2017年度は、全5864件の目録データを整備できたことにより、昭和19年までの画像を全件公開した。

さらに、2016年度に別予算でデジタル化を行った組上燈籠絵161枚を、アート・リサーチセンターと提携してデータベース化し、2017年度に公開することができた。

6. 研究業績

(1) 著書

1. 公演プログラム(歌舞伎座、新橋演舞場、明治座、南座、大阪松竹座、御園座、博多座)／共同／2004年1月以降発行の各月(但し歌舞伎本公演に限る)／巻末掲載上演年表(2012年以降の作成数:142公演、演目数は約704タイトル)

(2) 論文

(3) 研究発表等

・「事例紹介:『資料デジタル化の事例～松竹大谷図書館～』」／2018年2月27日／文化庁美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業「映画におけるデジタル保存・活用に関する調査研究」デジタル映画の保存と活用に関する技術セミナー(2017年度)セミナー2:映画関連資料のデジタル化に関するセミナー／東京国立近代美術館フィルムセンター小ホール

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

(5) その他研究活動(報道発表や講演会等)

(6) 受賞学術賞

(7) 科学研究費助成事業

(8) 競争的資金等(科研費を除く)

(9) その他